

## (5) 原発依存度低減の中での化石燃料利用に関する考え方

原子力依存度低減の中で、省エネや再生可能エネルギーの加速が進めば、中長期的には火力発電の絶対量は現状よりも減少するものと見込まれるが、少なくとも当分の間は化石燃料の重要性が高まる。このため、エネルギー・環境会議は、国際的なエネルギー情勢、エネルギー安全保障の観点、CO<sub>2</sub> 排出削減、基幹電源の在り方、再生可能エネルギーの調整電源の必要性といった点を十分に検証しながら、開発投資の推進、調達改革、技術開発の推進など、資源燃料政策を強化することを基本とする。

原子力発電の比率に応じて、電源及び一次エネルギーベースで化石燃料の構成がどのようなようになるか、さらにその際に必要な政策群は何かについて整理し、提示する。